

平成26年度

第2回 市政モニターアンケート調査結果



長 崎 市
農 業 委 員 会

※ 小数点第2位を四捨五入し表示しているため、個々の構成割合の合計が100%にならない場合があります。

1. 調査の目的

農業委員会は、農地等の利用関係の調整などをはじめ、農業全般にわたる問題を農業者の創意と自主的な努力によって総合的に解決していくことを目的とした農業、農業者の利益を代表する機関として、市町村ごとに設置されている行政委員会です。

農地法は、農地の所有者が勝手に農地を農地以外のものとして使用すること、処分することを制限しています。

近年、農業後継者不足などのさまざまな理由により遊休農地が増加し、農地の荒廃が進んでいます。農地は、農作物を栽培するだけではなく、景観形成や防災機能など、多くの役割を果たしており、また農作業の持つ健康への効果が注目されており、農業に従事していない市民の皆さまにも、農地の保全や農作業に関心を持っていただくことが重要と考えます。

今回の調査は、市民の皆さまの長崎市の農業や農地、農産物に対する関心や関わり方について把握し、今後の遊休農地対策等に生かしていくことを目的としています。

2. 調査の概要

調査期間 : 平成 26 年 7 月 10 日 ~ 平成 26 年 7 月 22 日
送付数 : 190 人 (郵送モニター 161 人、インターネットモニター 29 人)
回答率 : 84.2% (160 人)
(郵送モニター 145 人、インターネットモニター 15 人)

3. 調査結果

全体として、生活に身近な農作物に関する項目への関心や期待が高く、また目に見える環境や景観としての農業や農地へ期待が高い結果となりました。

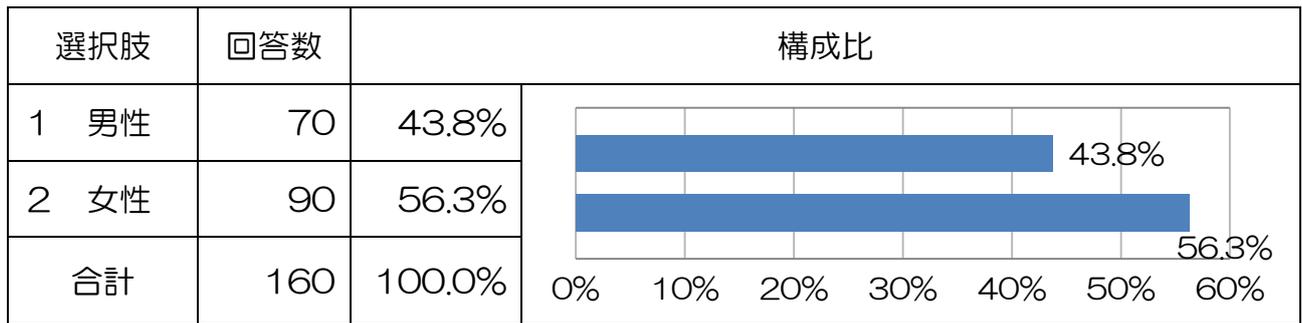
家庭菜園という形で農作業に携わるなど、農業に興味を持っているという意見も見受けられますので、遊休農地を解消し農地活用につなげていきたいと考えています。

近年の豪雨災害等によって、農地等の保全による防災機能の重要性に注目が集まっています。

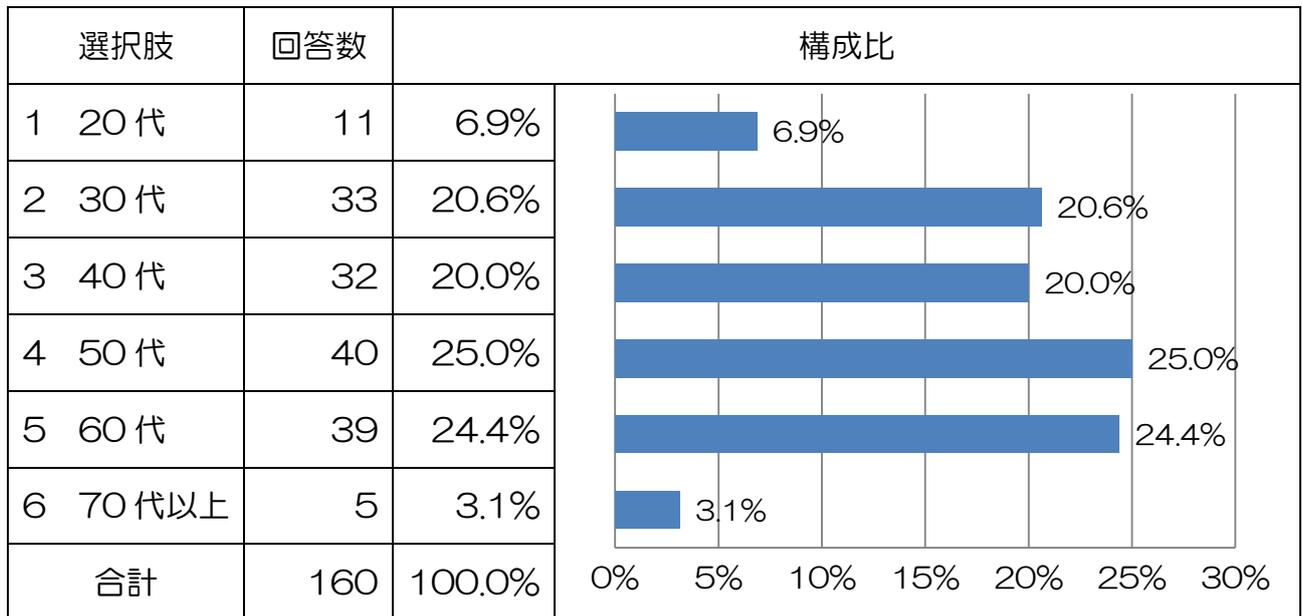
また農作業率が高いほど医療費が下がり、屋外での適度な運動としての農作業が健康維持に果たす役割が期待されています。

今後も市民の皆さまに、農業や農地の持つ多くの機能について広くご理解いただき、貴重な財産である農地を守り育てることの必要性について広報してまいります。

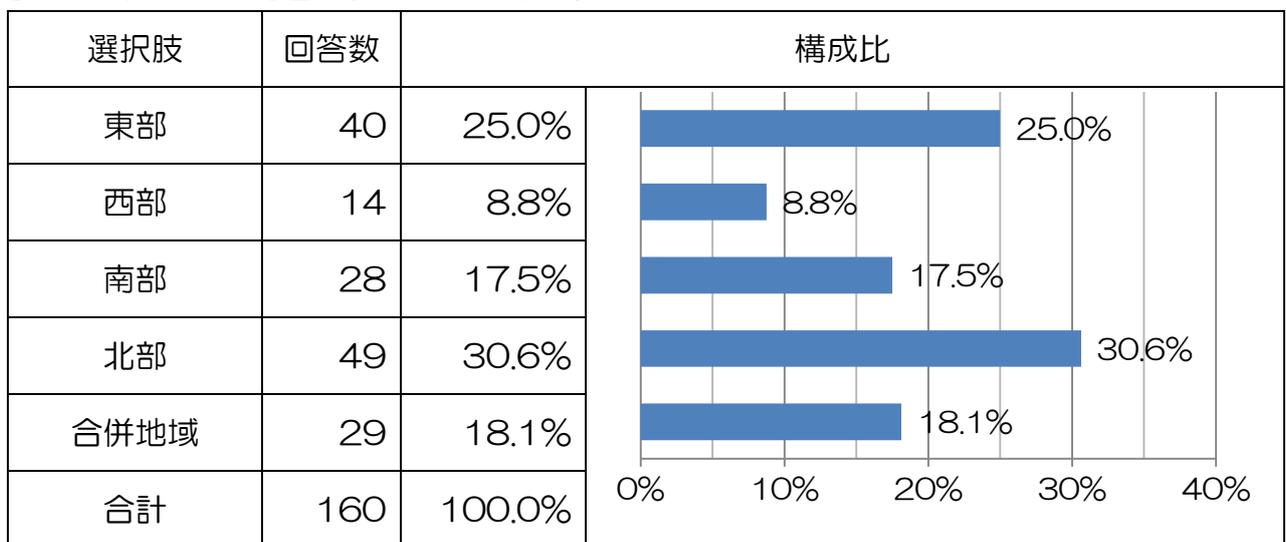
問1 あなたの性別をお答えください。



問2 あなたの年齢を選択してください。



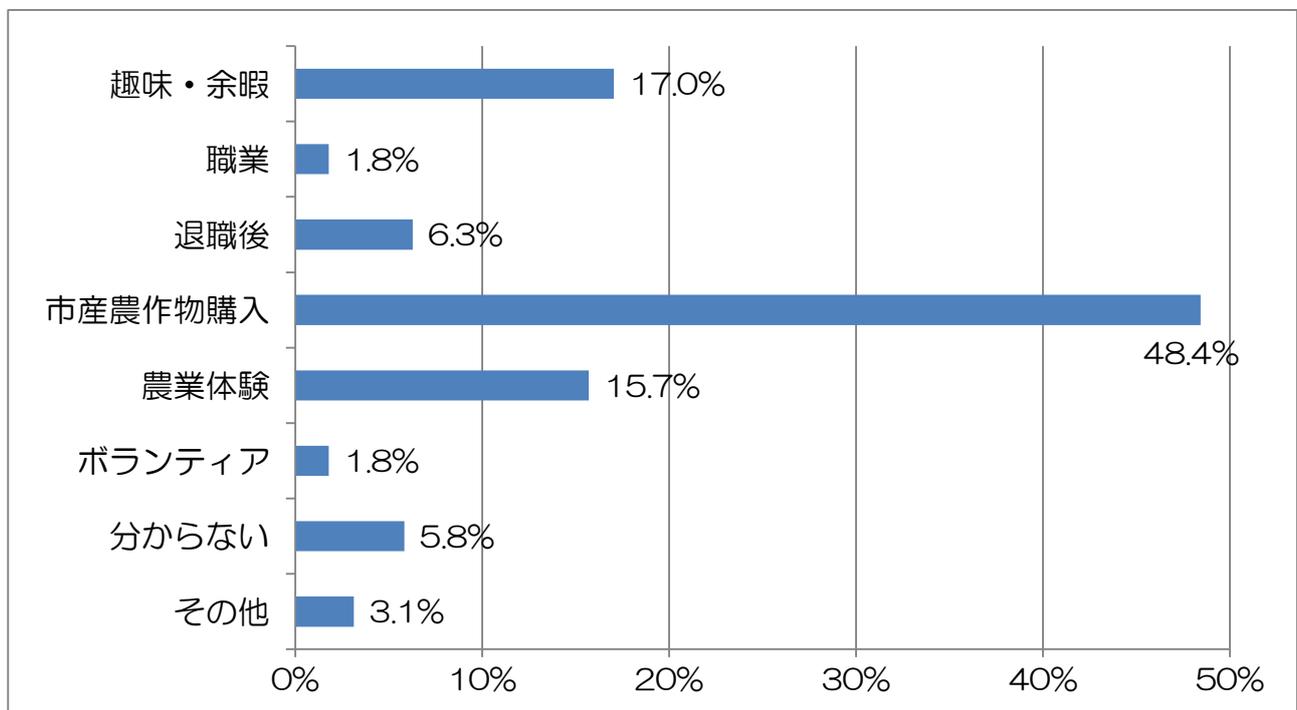
問3 お住まいの町名を教えてください。



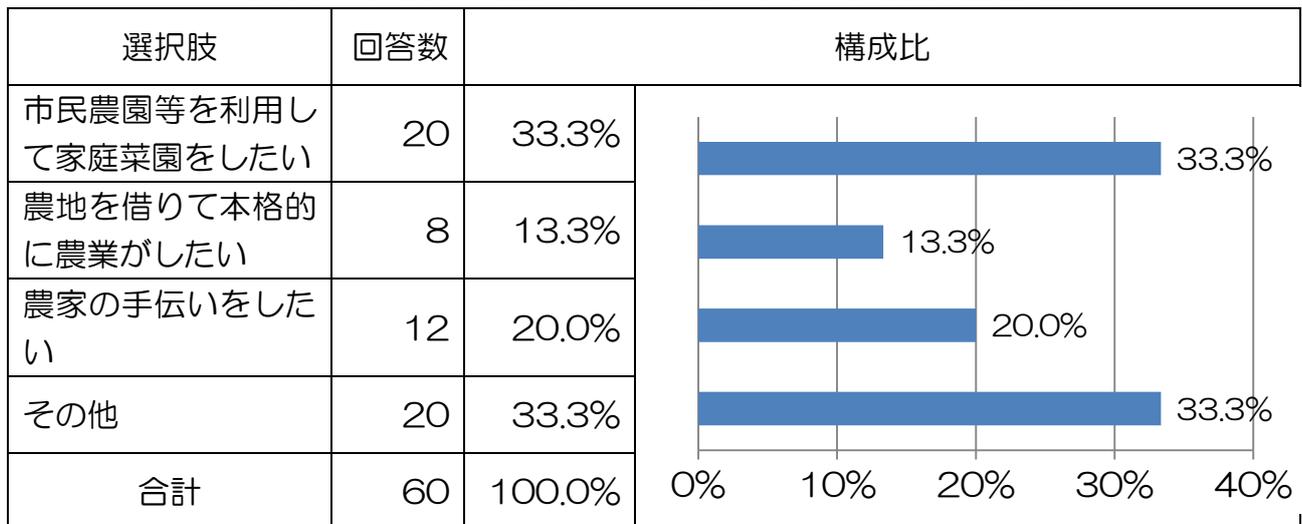
問 11 あなたが、長崎市の農業との関わりができると思うことは何ですか。

【複数回答可】

選択肢	回答数	構成比	
趣味や余暇として、農園や家庭菜園などで農業に携わりたい	問 12 へ	38	17.0%
職業として、農業に携わりたい		4	1.8%
退職後など、いずれは農業に携わりたい		14	6.3%
長崎市産の農作物を積極的に購入したい	108	48.4%	
機会があれば、農業体験に参加したい	35	15.7%	
ボランティアなどで地域の農業を支援したい	4	1.8%	
分からない	13	5.8%	
その他	7	3.1%	
合計	223	100.0%	



問 12 問 11 で、「農業をしたい」とお答えになられたかたにお聞きします。
 どのような方法で、農業に携わりたいと思いますか。【複数回答可】



<「その他」に記載があるもののうち、主な内容>

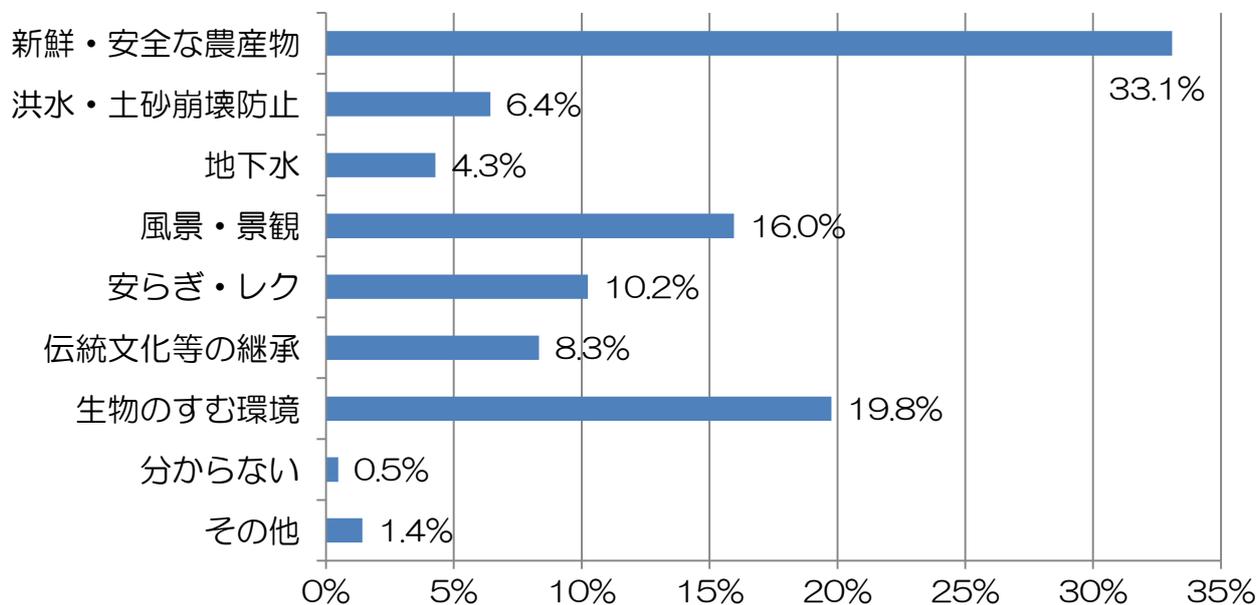
- 自宅の敷地内や近隣の畑で家庭菜園をしたい…9 件
- 畑となる土地を持っている、実家が農家 …4 件
- 現在、農業または家庭菜園をしている …2 件

農業との関わりについて、「長崎市産の農産物を積極的に購入したい」との回答が半数を占めました。続いて「趣味や余暇として農園や家庭菜園などで農業に携わりたい」「機会があれば農業体験に参加したい」という回答が多くなっています。

また、農業をしたいと回答されたかたの農業への携わり方としては、「市民農園等を利用して家庭菜園をしたい」「その他」が多くなっています。その他の記載内容には、自宅の敷地内や近隣の畑といった身近な場所で家庭菜園をしたいという内容のものが多く、市民の生きがいつくり、健康増進、子どもへの食育などが背景にあり、気軽に農作物の生育を見守ることのできるような家庭菜園についての希望が高いことが分かります。

問 13 農業や農地に期待することはどのようなことですか。【複数回答可】

選択肢	回答数	構成比
新鮮で安全な農産物を市民に供給する	139	33.1%
雨水の貯水などにより、洪水や土砂の崩壊を防ぐ	27	6.4%
雨水の浸透により地下水を豊かにする	18	4.3%
のどかな風景や良好な景観をつくる	67	16.0%
農業体験などを通じて、安らぎやレクリエーションの場を提供する	43	10.2%
豊作祈願などに由来する古くからの伝統文化やまつりなど行事を継承する	35	8.3%
鳥やトンボ、小魚などのすむ環境を残す	83	19.8%
分からない	2	0.5%
その他	6	1.4%
合計	420	100.0%



新鮮で安全な農産物の供給に対する期待が最も高く、次いで、生物のすむ環境を残すことや、良好な景観形成に対する期待が高くなっています。一方、雨水の貯水等による洪水や土砂の崩壊を防ぐ、地下水を豊かにするなどの、目に見えない農地の機能への期待が低い結果となりました。

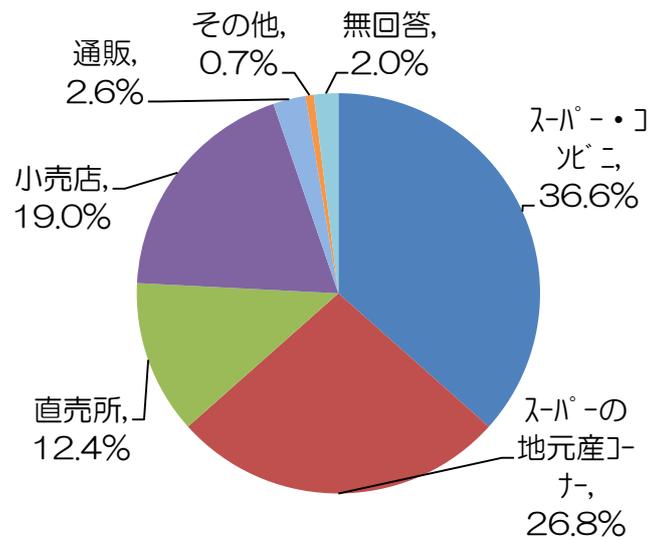
問 14 あなたは日頃、農産物を主にどこで購入していますか。【〇は1つ】

選択肢	回答数	構成比
スーパーマーケット、コンビニエンスストア	56	36.6%
スーパーマーケットの地元農産物販売コーナー	41	26.8%
農産物直売所、庭先販売	19	12.4%
小売店（八百屋など）	29	19.0%
通信販売や宅配	4	2.6%
その他	1	0.7%
回答なし	3	2.0%
合計	153	100.0%

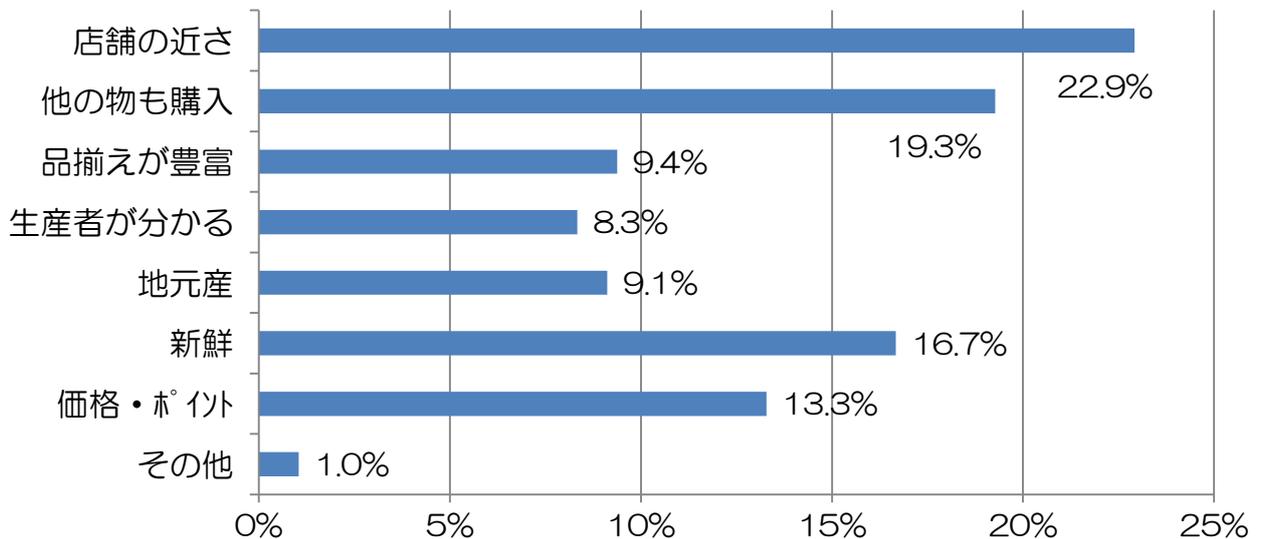
問 15 問 14 で回答したお店等で農産物を購入する理由は何ですか。【複数回答可】

選択肢	回答数	構成比
自宅や職場から近いから	88	22.9%
農作物以外の物も一緒に購入できるから	74	19.3%
品揃えが豊富だから	36	9.4%
生産者が分かり安心だから	32	8.3%
地元産の農作物を食べたいから	35	9.1%
新鮮だから	64	16.7%
価格が安い、またはポイント等の特典があるから	51	13.3%
その他	4	1.0%
合計	384	100.0%

<問 14 の分布> 農産物を購入する場所



<問 15 の分布> 購入理由



店舗までの距離や他の商品も一緒に購入できるといった利便性から、スーパー・コンビニでの購入が全体の6割を占める結果となりました。このうち、スーパーの地元産コーナーの割合も比較的高く、地元産農産物への期待の高さがうかがえます。新鮮で安全安心な地元産の農産物に、さらに関心を持っていただけるよう、周知に努めてまいります。